

令和4年度長野県教育委員会主要施策

～ 未来をつくる「学びの改革」 ～

新型コロナウイルスとの闘いでも明らかなように、変化の激しい予測困難な時代にあっては、思考停止に陥ることなく、自ら考え、判断し、試行錯誤や創意工夫ができる資質・能力が求められます。一人ひとりの認知の特性や興味関心の違いを踏まえて、その力をさらに伸ばすため、「探究」を中核とした学びの必要性は今後さらに増していきます。

今年度は、第3次長野県教育振興基本計画（計画期間：平成30年度から令和4年度まで）の最終年度として、それぞれの施策の総仕上げを意識し取組を一層進めるとともに、次期計画の策定に向け、子どもたち、ひいては社会にとっての「Well-being」を実現するため学校はどうあるべきか、長野県教育は何を目指していくべきか、教育に関わる様々な関係者とともに考えてまいります。

【誰もが主体的に学び続けられる社会づくりについて】

全ての就学前児童に対し質の高い幼児教育を提供するための幼児教育支援センターの取組、学年担任制や学年の枠を越えた授業導入等の学校改革に挑戦する小中学校の取組、「未来の学校」実践校として先進的・先端的な実践を研究する高校の取組等を共有・支援し、全県で幼保・小・中・高の一貫した「学びの改革」を進めてまいります。

ICT教育については、昨年4月に設置した「長野県ICT教育推進センター」を司令塔に、教員のICT活用力向上研修やモデル授業の提案等に取り組んでまいりました。令和4年度からは、先端的な教育ソフトウェア教材の活用、指導改善につなげるシステムの導入、ICT機器障害への対応を支援する「GIGAスクール運営支援センター」の設置等により、児童生徒の探究学習や協働学習、習熟度に応じた個別最適な学習を推進してまいります。

県立高校の再編については、「再編・整備計画」一次・二次の統合新校ごとに「再編実施計画懇話会」を設置し意見交換を重ね、地域での意見集約が先行していた小諸新校と伊那新校の「再編実施基本計画」を決定しました。三次(案)として、残り5地区と県全体の定時制課程の配置を公表できるよう検討を進めてまいります。

学びの機会充実については、市町村と協働して住民ニーズに沿った電子書籍の貸出サービスを導入するとともに、県立長野図書館に調査研究支援のための専門書・学術書の電子書籍閲覧サービスを導入し、居住地や生活スタイル、障がいの有無等に関わらず学び続けられる基盤づくりを進めてまいります。

【誰一人取り残さない公正な社会づくりについて】

不登校児童生徒への支援については、県下4か所の教育支援センター等に配置された不登校支援コーディネーターを中心に、自宅やフリースクール等での学びを支援する仕組みを構築するとともに、その学びや活動の評価のあり方について検討してまいります。

特別支援教育については、自立活動担当教員の増員、図書や教材の整備、芸術家等の外部専門家による授業の充実等に取り組むとともに、松本養護学校・若槻養護学校の改築等に向けた基本計画の策定、老朽化施設の計画的な修繕、児童生徒の増加による狭隘化に対応した教室の増築等学びの環境の充実を図ってまいります。